

その16

明治期における水との闘い

●今月の「ふるさと再発見」シリーズ第十六回目の今回は、明治期に西蒲原地方は水害の猛威に悩まされ、わがふるさと岩室も西川、矢川などの氾濫のため、官民あげて血みどろの水との闘いが続けられていた当時の様子をご紹介しましょう。

●水とのたたかい

明治期の西蒲原地方は、明治二十九年の横田切れ、同三十八年・四十年の西川西部を襲った大水害など、毎年水害の惨をなめており、これらの治水対策として、信濃川の洪水を郡内に入らずに上流で直接日本海に放流することと、郡内の悪水専用排水路によって日本海



に放流することの二点を完成するために、官民あげて血みどろの水との闘いが続けられていました。

このため西川沿岸の村々では、上流の柳土堤（御新田排水をめぐる対立）、矢川上流の二間口、中流の岩室橋・下流の西川との合流地点の竹野町堰・六間口堰などで排水をめぐって対立していました。また、洪水に備えて岩室地方では、明治十四年十一月二十七ヶ村が西川堤防組合を組織。矢川についても、矢川急破防禦組合を設置したほか、千間堤防組合、西川西部の水害予防組合などをつくり、水害とたたかったのです。

●矢川排水計画

西川西部の農民たちは、水との闘いのなかで、局所的な治水策では抜本的解決につながらないとして、「樋曾村地先より角田浜海面まで、延長二、二四間（約三・八km）の悪水路をつくり樋曾山隧道を掘る」などの案が、浮かんでは消えていったのです。このような折、西川谷口に水量を制限する閘門を設け、信濃川の過剰水量の流入を防止する案が示されました。

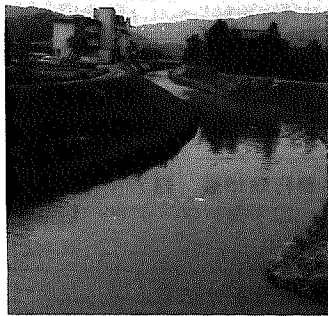
これは、西川の水量が制限され、信濃川洪水時において西川からの大水害が防止されるばかりでなく、矢川からの悪水が西川との合流点で従来より以上に放流できることになり、矢川の洪水を防止できるという一石二鳥の効果をもつものでした。

●西川西部普通水利組合

明治三十四年四月、この西川閘門設置案が

具体化し、九月十日に県知事から正式認可がおり西川西部水利組合が発足、そして県より明治三十五年六月、五十日以内に着手、五年以内に竣工検査を受けることを条件に補助金三万三千二百五十九円九十三銭八厘をつけて工事計画が認められ、閘門新設・排水路新設・矢作御新田排水路の新設・矢川改修の順で工事がはじまりました。

このような水との闘いの一方では、農業生産の向上にむけての努力もつづけられ、明治



四十三年十二月、北野外大字耕地整理組合が設立されたのはじめ、大正期にわたって各字に耕地整理組合が誕生。水田の乾田化、区画整理などが行われ、農業の立地条件が整備されていきました。

今回ご紹介した内容は、岩室村史から抜粋して掲載したもので、詳しくは岩室村史をご覧ください。なお、岩室村史をご希望の方は役場総務課企画係にて頒布（一冊五千元）していますのでご連絡ください。

'93 にいがた冬・食の陣

新潟市では2月1日(月)〜7日(日)の一週間を「週間座」、2月6日・7日の両日を「(当日座)」として、「'93にいがた冬・食の陣」と題したイベントを行います。米・酒・魚に代表される新潟の「食」を、この機会に味わってみませんか？詳しくは、新潟の食市食座実行委員会（☎025-222-6677）までどうぞ。

入札結果から

工事名・場所	工事費(万円)	完了予定日	工事業者
(農村総合整備モデル事業)			
■集排第56号改修工事 (高畑地内)	670	5. 3. 26	(株)吉田建設
■測量・調査・設計委託 (夏井地内)	814	〃	(株)新潟測量設計社
■〃 (石瀬地内)	340	〃	大原技術(株)
■〃 (岩室・和納地内)	567	〃	(株)小柳測量開発

業務休業のお知らせ

三月十日(水)、静岡荘では職員健康診断のため、業務を休みます。